

**6**  
Rd.

SEP 2012

# RACING PRESS

*apan*

**2012 AUTOBACS SUPER GT ROUND 6  
FUJI GT 300km RACE**





# SUPER GT

## 2012 Round 6 FUJI SPEEDWAY

Editor  
吉川 嗣恵

Photo  
鎌谷 康博  
加藤 公丸  
中村 佳史  
近江 勲  
小澤 克仁

FUJI GT 300Km RACE  
9/8-9





# カルソニックIMPUL GT-Rが今季初勝利

ポール・トゥ・ウィンで圧勝



Audi



スーパーGTシリーズでは、シリーズ戦が年に2度開催される唯一のサーキット。その富士スピードウェイで第6戦が行われた。レクサスSC430が圧倒的な強さを見せるという富士、しかし前戦ではニッサンGT-Rが今季初勝利を上げ、すでに1勝しているホンダHSVと3大メーカーが激突、ここに来て三つ巴の激しい争いが予想された。予選から好調をアピールするGT-RはJ・P・デ・オリベイラがQ2でベストを叩き出した6号車(ENEOS)を上回る気迫の32秒台でポールを獲得。2番手にもGT-Rが入りGT-Rがフロントローを獲得した。3番手から6番手までがSC430が、HSVは8位と大きくポジションを落とした。

決勝はカルソニックの松田次生が好スタートを切りトップのままオリベイラと交代。第2ステイントのラップを重ねオリベイラはさらに後続車を離し、10秒もの大差をつけ初優勝。2位のもS Road GT-Rが入り、結果S Road GT-Rはポイントランキングでもトップに浮上した。

GT500



# 5戦に続くGT-Rが2連覇!

GT-Rの猛反撃。SC430の3勝に追撃



WINNER

No.12 CALSONIC IMPUL GT-R

レクサスSC430優位を見事に跳ね除け予選、決勝と快走を見せた松田次生とジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ。星野監督も嬉しい1勝に喜びを隠せない表情。





### GT500 決勝結果

優勝	No.12	カルソニック IMPUL GT-R	松田次生 / ジョアオ・バオロ・デ・オリベイラ
2位	No.1	S Road REITO MOLA GT-R	柳田真孝 / ロニー・クンタレリ
3位	No.19	WedsSport ADVAN SC430	荒 聖治 / アンドレ・クート
4位	No.36	PETRONAS TOM'S SC430	中嶋一貴 / ロイック・デュバル
5位	No.17	KEIHIN HSV-010	金石年弘 / 塚越広大
6位	No.39	DENSO KOBELCO SC430	脇阪寿一 / 石浦宏明





# 33号車HANKOOK PORSCHE今季2勝目

ポイントランキングはトップに

予選はハイブリッドの31号車プリウスがポールを獲得。2番手に33号車HANKOOKポルシェ。そして3番手にはハイブリッドのCR-Zと続く。決勝は好スタートのプリウスが第1コーナーでスピンで後退、しかし終盤プリウスとCR-Zのハイブリッド車がそのマシンのポテンシャルを生かし猛追で3台が競り合う形となったが結局HANKOOKポルシェの藤井が手堅いドライビングを見せ、セバンに続き今季2勝目を飾った。



GT300



HANKOOKは予選は2位、追い迫るハイブリッド車2台を振り切る

表彰台にハイブリッド車が2台!



WINNER

No.33 HANKOOK PORSCHE





### GT300 決勝結果

優勝	No.33	HANKOOK PORSCHE	影山正美 / 藤井誠暢
2位	No.31	apr HASEPRO PRIUS GT	新田守男 / 嵯峨宏紀
3位	No.16	MUGEN CR-Z GT	武藤英紀 / 中嶋大祐
4位	No.911	ENDLESS TAISAN 911	峰尾恭輔 / 横溝直輝
5位	No.43	ARTA Garaiya	高木真一 / 松浦孝亮
6位	No.61	SUBARU BRZ R&D SPORT	山野鉄也 / 佐々木孝太



# THE TEAM

# CLOSE-UP

## Team TEAM ARTA

Text by M. Shimamura

Photo: Y. Tetsutani / K. Kato / Y. Nakamura



小林崇志選手



ラルフ・ファイマン選手



## モータースポーツブームの立役者 常にアグレッシブな活躍を見せる有名監督

その昔、マイナーと言われたモータースポーツがテレビで放送されるようになり、その中からスター選手が生まれてきた。彼らはマスメディアという大きな力に支えられ、スポットライトを浴びることによって、モータースポーツファンの憧れの存在となり、人気を博していった。未だレースをサーキットで見たことがない、という人ですら知るドライバーの数は決して多くはないだろう。だが、知名度の高さを誇る鈴木亜久里監督はおそらく別格だろう。

一世代前のプロドライバーは、オートバイもしくは4輪レースがそのスタートラインであったが、鈴木監督の場合は幼い頃から始めた

レーシングカートが原点。その影響か、現在、レーシングチームでの活動の一環として若手ドライバー育成にも尽力しており、スカラシップを設立して未来のトップドライバーのサポート役を請け負う。そして、そのサポーターを務めるのが、このスカラシップを受けてステップアップカテゴリーを突き進んできたプロドライバーたち。ピラミッドのようになった厳しいレースの世界の中で、選ばれてきた先輩たちが夢多き子供たちをバックアップしているのだ。

そして、この制度を支えるのが、鈴木監督のチームとのパートナーシップを結ぶオートボックス。1997年に提携して「ARTA」を設立。これは、

AUTOBACS Racing Team AGURIの略称で、「エーアールティーエー」と読む。チーム設立以後、IRLインディカーシリーズ、F1世界選手権と欧米での最高峰レースに挑戦するなど、日本のモータースポーツ界を代表する顔になった。2008年以後、海外でのレース活動からは撤退したが、国内でもSUPER GTや全日本選手権フォーミュラ・ニッポンに参戦。GT500クラスのシリーズタイトルも獲得する名門チームとなった。

2009年からはSUPER GTに特化。しばし厳しい戦いが続いているが、笑顔がトレードマークとも言える鈴木監督の下、チーム一丸となって再びチャンピオンタイトル獲得を目指している。



# PRESS TOPICS

## GT500

## GT300



トップのキーブで2番手ドライバーオリベiraにバトンタッチ



前回の優勝から絶好調。ポイントリーダーに浮上



スピんで後退するも猛追で結果は2位



2台のハイブリッド車の追い上げをかわし今季2勝目



オリベiraはマシンの上に乗ってガッツポーズ



スタート直後の第1コーナ。ボールのプリウスがスピン